

教育

◆児童生徒の学び方と教職員の働き方改革プロジェクトで
総務大臣賞受賞！

1月17日(木)に行われた日本ICT教育アワードで、多久市が総務大臣賞を受賞しました。これは、昨年からの取り組みで、学校ICT環境の整備による、児童生徒の学び方と教職員の働き方改革が評価されたものです。当日は「夢つかむ子と素敵な先生になるための教育フルクラウド改革」と題し、取り組みと現れ始めた成果を発表しました。

多久市では、平成28年度に実施した総務省実証事業の成果を活用し、ICTを活用した協働学習による児童生徒の学び方改革と、フルクラウドによるICTを活用し教職員の働き方の選択肢を増やすことで、職員の働き方改革を推進しています。その結果、超過勤務時間の縮減など着実に効果が見えています。今後、ICT活用教育の充実と、子どもたちの学力向上、さらには、すべての児童生徒が自己肯定感に満ちた学校づくりを目指します。



▲表彰を受ける横尾市長と田原教育長

今月の論語

敏^{びん}にして学を好み
下問^{かもん}を恥じず

悟りが良くて学を好み、高い地位にいらながら、自分より下の者に問うことを恥じない。

今月の帰宅放送は、東原摩舎西溪校9年 深川 美咲さん(西多久町)です

問い合わせ 学校教育課 学務指導係 ☎75-2227

教育長コラム

ちょっといい話



不自由だけれど

不幸ではない社会へ

肢体不自由の子どもたちが通う養護学校(現特別支援学校)に希望して勤務した。土曜の昼下がり、学校前のバス停である親子の姿を偶然見かけた。自分より大きい高等部の息子を、おぶりながらバスのステップを上がる母親。下肢麻痺の息子の脚は引きずられていた。唐津在住のため、金立から一旦佐賀駅までバス移動し、それからJR唐津線へ。寮から自宅に帰る頃は夕方遅い。翌日また半日かけて寮まで送って来られる。母の愛に脱帽した。

40年前の光景だった。子のハンディさえ母親の責任にされ、離婚させられることも少なくなかった時代であった。現在、ようやく障がいや発達障がいへの理解も進み始めた。

何かしら不自由でも、幸福感を感じながら生活できる、そんな社会の実現まであと一歩。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆親のごと世話やきくるる姉逝きて
年甲斐もなく涙とまらず 福島那智子

◆過去を捨て夢を脱ぎ捨て叶わない
現実を今着こなして行く 野崎 隆幸

◆夫の今「食べて喋れて生きている」
介護の成果に喜び感じる 梶原恵美子

◆花がらを被りしままのえんどうを
今朝十数り夫の採りくる 川浪 信子

◆秋の陽のあまねく充ちし病室に
久方ぶりの静心もつ 尾形 節子

◆柚子ふたつ浮きし湯殿に星仰ぐ
おおやはな 中嶋 清子

◆短日の谷間を跨ぐ日差しかな
武富 律子

◆暁の静もる森や冬の月
富樫 明美

◆夜なべする母の背徳ぶ今宵かな
本村 則子

◆苦も楽も見て来た越えて来た白髪
田代まつこ

◆新海苔の艶を束ねて朝の市
大谷 和

◆眼となつて命を託す白い杖
高塚ちかこ

◆今度こそ生れ変わつて親孝行
田中 正治

◆白旗を上げて円満夫婦仲
松下 修

川柳 《多久市川柳会 互選》

俳句 《互選》

短歌 《麦の芽短歌会 互選》